

第6学年1組 国語科学習指導案

【日時】令和6年7月24日(水) 9:20~10:05 【場所】多目的室1・2 【指導者】中尾 通孝

本授業の参観の視点

紙芝居を作ることに「没頭」する中で、文学的文章をどのような視点を用いて考えればよいのか、また、作家や同作家の別の作品などに意識を向けながら、「言葉の資質・能力」を駆使して考える「俯瞰」している姿をご覧ください。

1 単元名 『やまなし』の世界を紙芝居にしてみよう ～『やまなし』(光村図書 6年)～

2 単元の構想

(1) 単元について

本教材は、五月と十二月(原文では十一月)の2つの物語に分かれて、かこの親子の会話で進む単純な話のように見える。登場人物の行動を追って流れを把握することは単純ではある。しかし、「ラムネのびんの月光」「天井」「光のあみ」「かふかふ」「ぼかぼか」などの、色や比喩表現、オノマトペ、情景描写に独特の表現が使われており、違和感や間違った読みをもつことがよく見られる作品である。その表現を読み取ることが1つ課題となる教材といえる。また、五月と十二月の話と、それらの話をつなぐような部分があり、文章構成にも特徴のある作品である。その構成の特徴から、表現の意図を自分なりに考えることができる作品である。さらに、「クラムボン」や「イサド」など、物の名前、地名など、ほかの作品にも使用されている作者独自の世界観で、本文中に根拠がないものもある。そのことで作者が何を意図してこのような作品を残したのかと、自然と分析的に文章を捉え始め、作者への関心へ興味を向けることができる教材である。以上のようなことから、「評論家」や「研究者」のような客観的に分析することに没頭しやすい教材であるとも言える。

(2) 児童について

本学級の児童は、「こちら附小編集局『帰り道』の表紙をつくろう」という文学的文章教材の学習において、『帰り道』を本にした際の表紙をグループ毎につくる活動を行った。

「言葉の資質・能力」に関する学びとしては、表紙のデザインを基に話し合った。「歩道橋は二人の距離が一番離れている一番暗い場面だから重要だ」「二人いないといけないから、靴は二人を象徴する物だ」「二人の視点から書かれた作品だから表紙と裏表紙で視点の違いを表現しよう」「天気雨には晴れと雨のどっちも入っていて、どっちも好きと同じようなことだ」などと、物や場所、色、数に意味や効果、視点人物と文章構成について学習した。

また、「学び方の資質・能力」に関する学びとしては、どのような4人の意見を集約して表紙を作るか、それぞれ作ったものの中から1つに絞るか、それぞれ作ったものを切り貼りして作成するかなど、どのような段取りや見通しをもって活動を行うかということを学んできた。しかし、6時間の制作時間をどのように用いるかなどの計画については出てこず、できることからしてみようという方法をとるグループが多かった。

(3) 指導について

指導に当たっては、色や比喩表現、オノマトペ、情景描写、文章構成について、表現を互いに話し合いながら妥当性のある読みをすることを目的とし、その読みを絵としてあらかず紙芝居づくりを設定する。また、同時に、作者の生い立ちや信条などを合わせて考えたり、同作家の別の作品を合わせて考えたりするような作品の外に広がる読みを期待して、教科書に掲載されている資料「イーハトーブの夢(畑山博著)」の他に、宮沢賢治の作品及び、宮沢賢治に関して書かれている書籍を準備して並行読書にもつなげる。

第一次は、紙芝居の絵を創作する活動を通して、①わからない語や文に関する事、②オノマトペに関する事、③登場人物に関する事、④場所に関する事、⑤色に関する事、⑥比喩表現に関する事、⑦文章構成に関する事などについて課題が生じることが予想される。どの順番で発生するか分からないが、そのような点についてどのように考えているか、考え直したり価値付けたりする俯瞰できるようにするため

に、教師が質問したり、仲間の作品と比較を促したり、仲間との違いに気付かせたりすることで、俯瞰できるように言葉かけをしていく。また、課題や成果を黒板に記録しながら掲示板のように用いて全体に共有化することで、できるだけ、児童の時間を確保し没頭できるようにする。

第二次は、①～⑦の理解を深めた児童が、宮澤賢治やその作品など、文章の外に目を向けることと考える。⑧題名に関すること、⑨作者に関すること、⑩宮澤賢治の考えと作品の主題に関することのような考えを紙芝居にどのように反映させるか考えることが考えられる。第一次の時点で発生していた場合でも、紙芝居づくりの妨げとなる可能性があるため、この時間にまとめて取り上げる。

（4）期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付けたものが表1である。

表1 期待する「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力、児童の姿

	内容	資質・能力	児童の姿
ステージA 「題材・領域」	国語科 『帰り道』 「こちら附小編集局 『帰り道』の 表紙をつくらう」	・視点人物と文章構成、物や場所、色、数に意味や効果、2つの言葉の共通性からつなげて考え、文章を解釈しながら表紙に載せる要素を考える。 【思考力、判断力、表現力等】	・表紙に載せる物や風景を、物語の内容と照らし合わせて考えたり、2つの視点から書かれた構成を表紙に生かそうとしたりするなど、読みの観点をういて読み取れている。
ステージB 「自教科」	国語科 『時計の時間と心の時間』 「文章を図で表そう プレゼンシートづくり」	・文や文章中に含まれる「①順序・因果、②比較・対立、③往復・往還、④包含関係」などを考えながら、文や文章を説明する図をつくり紹介する。 【思考力、判断力、表現力等】	・文章を図化したプレゼンシートを考えることで、接続詞や助詞、文章構成を意識して、文章同士や段落同士の関係性を意識している。
ステージC 「他教科」	社会科 「縄文時代・弥生時代」 など	・社会的事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力。 【思考力、判断力、表現力等】	・地図による位置関係、年表による前後に起こった出来事との関係を見ながら、その出来事との関係を考える。
	社会科 「明治・昭和初期」	・我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことや大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、地震や津波、人々の生活などの時代背景を理解すること。 【思考力、判断力、表現力等】	・文明の発達とそのころの道具、戦争や地震などで身近な人々が亡くなっていく様子を目の当たりにした宮澤賢治の状況を想像する。
ステージD 「実生活・実社会」	文学研究	・作品自体ではなく、作者の生い立ちや時代背景をもとに、文章を解釈していく。 【思考力、判断力、表現力等】	・作者に目を向け経歴や伝記を読んだり、同じ作家の作品を続けて読んだりしようとしている。
	紙芝居づくり	・協働して作品をつくり上げる際に、計画性をもって話し合いながら、妥協したり主張したりしながらつくり上げていく。 【学びに向かう力、人間性等】	・紙芝居づくりの活動を通して、どのような準備が必要かを考えて活動し、友達と意見をすり合わせながら活動している。

本単元の「回遊する学び」に関しては、ステージDの紙芝居づくりを通して行われる。紙芝居づくり、音読劇、ペープサートなどの「劇化」は、文学的文章教材と関りが深く、紙芝居づくりのために絵を描くことで、登場人物や段落、時代、文化などの理解とつながっている。絵と文の区切りを考えることで、文章構成に意識を向けることになる。言い換えると、ステージDの紙芝居づくりを基に、主に、ステージA、Bを回遊すると考えられる。また、今回の教材文『やまなし』は、荒筋は分かりやすいが、表現や分からない言葉、作品に込められた主題などがはっきりしない。その読後感から、作者への意識が生じやすい。その作者の生い立ちや生まれ育った時代を考えることで、ステージCへと回遊が進み、直接紙芝居の絵に反映されることは少ないかもしれないが、作者や作品に意識が回遊すると考えられる。この活動全体を通して他者の発想と交流が生じるようにグループ活動としている。

3 単元の目標と評価基準

(1) 単元の目標

紙芝居づくりのために、『やまなし』について、登場人物の相互関係や心情、語句などの描写をとらえたり作者について調べたりして、構成や叙述について自分で考えながら読み、絵に表すことができる。

(2) 評価規準

ア 登場人物の相互関係や心情、オノマトペ、場所、色、比喩表現、文章の構成などの語句に注目して描写を理解している。 【知識・技能】

イ 作品の主題や設定、世界観について理解を深めるために、作者の生い立ちや他の作品と関連付けて文章を読み、自分なりの考えをもつことができる。 【思考・判断・表現】

ウ 紙芝居づくりの活動を通して、どのような準備が必要か、何にどれくらいの時間をかけるかを自分たちで考えて活動し、仲間と意見をすり合わせながら活動している。 【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全8時間 本時4／8時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	礎
一	（本時）	○『やまなし』を読み、紙芝居づくりのための段取り・計画をして必要な物を準備する。	・自分事として活動できるように児童に任せた活動を先に行い、「段取り」「見通し」「計画」についてよい方法を価値づけて共有化して俯瞰させる。	◆紙芝居づくりのために、場面分けや仕事内容を考えて、役割分担をしている。 【主】	A B D 他者
		単元目標【言語活動】『やまなし』の世界を紙芝居にしてみよう。 【言葉の資質・能力】構成や叙述と作者の生い立ちを関連付けながら読み、紙芝居づくりができる。 【学び方の資質・能力】段取りや見通し、計画を考えながら学び進めることができるようになる。			
		・五月と十二月の構成を考慮して段落分けをしながら、誰がどの絵を描くのか話し合う。	・文章構成として、二つの物語と、それらをつなぐ部分があることに気付いているグループの考えを価値付けることで、共有化を促す。	◆構成を考え、登場人物の言動を考えながら紙芝居の場面分けができる。 【知・技】	
		・「天井」「光のあみ」「ぼかぼか」などについて考えながら絵を描く。 (働く見方) 「登場人物の関係」「文章構成」「場所や位置の関係」「オノマトペ」「色、物」「比喩表現の共通部分」	・活動の進め方や話し合い方などについてよいアイデアがある場合は、板書に記入したり、児童同士を回遊させたりすることで、共有化を促す。 ・わからない言葉や表現、疑問に思ったことを、皆で解決し、情報を共有化できるように、板書に残す。	◆オノマトペ、場所、色、比喩表現について明確にして、絵を描いている。 【知・技】	
		5 「段落相互の関係」等 ○完成した『やまなし』の紙芝居を並べて掲示し、同じことや違うことについて話し合う。	・他のグループの絵と自分たちの絵の違いについて話し合わせることで、それぞれの解釈の違いについて気付かせる機会とする。	◆自分たちの活動に達成感を感じ、次の学習に意欲をもつことができる。 【主】 ◆文学的文章教材の見方から、正しく内容を把握するとともに、色々と想像し、味わいながら読むことができる。【思・判・表】 ◆活動を振り返り、価値付けすることができる。 【主】	
二	6	○紙芝居の絵として表現しにくい場面や物を、仲間と話し合いながらつくっていく。	・資料「イーハトーブの夢（畑山博著）」や宮沢賢治の他の作品、宮澤賢治の生涯を描いた作品を紹介し、作者と作品の関係を考える見方のきっかけとする。	◆作品の表現からだけではなく、作者の生い立ちや生きた時代、他の作品から、作品を考える視点を知る 【知・技】	A B C D 他者
	7	・作者が作品を作った時代にはどんな出来事があったのか調べる。	・作者のほかの作品と「やまなし」の共通点を見つけることで、作者の人柄や考え方に興味をもたせる。	◆作品の表現からだけではなく、作者の生い立ちや生きた時代、他の作品から、作品の文章表現を解釈しようとしている。 【思・判・表】	
	8	・作者の他の作品と比べて、作者の考えから主題を考えてみる。	・「やまなし」の作者を意識することの第一歩として取り扱うために、明らかな答えを必要としないものに関しては学級での合意形成を行うにとどめることとする。		

5 本時の指導 (4/8)

(1) 指導目標

紙芝居づくりを通して、登場人物の関係、場所や位置の関係、オノマトペや色など、自分たちの課題を解決するために、話し合いながら読みを深めることができる。

(2) 評価規準

イ 文学的文章教材の見方から、正しく内容を把握するとともに、色々と想像し、味わいながら読むことができる。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
1 前時の学習を振り返り、本時の活動の計画を確認する。 (2分)	1 前時の続きとなるので、出てきた課題の確認を短時間でいき、児童の活動に入ることで、個に応じた指導の時間を増やし、児童が考え没頭する時間に入れるようにする。
めあて 『やまなし』の世界を紙芝居にしてみよう。	
2 『やまなし』紙芝居づくりを行う。 (15分)	2-(1) グループ間を、 <u>比喩表現に目を向けさせるために、「天井」「コンパスのように黒くどがっているもの」「光のあみはゆらゆら」などの言葉をどのように絵に表しているか質問する。(A B他者)</u> 2-(2) グループ間の絵を比較するように促すことで、同じ場面の解釈の違いに気付かせる。 2-(3) グループの中で出てきたアイデアや課題を板書するように促し、共有化の布石とする。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「幻燈」ってなんだろう。国語辞典で調べてみよう。昔の道具の写真はないかなあ。 ・「イサド」ってどこなのかな。「クラムボン」は何か。どうすればわかるのかなあ。 ・「かぶかぶ」笑うって、どんな笑い方かなあ。 ・「ぼかぼか」ってどんな感じなのかなあ。 ・どうして、かへの親子なんだろう。上を泳ぐ魚と場所の意味はあるのかなあ。 ・川の底の「天井」って何だろう。 ・「ラムネのびん」は本当にあるのかなあ。 ・「五月」「十二月」「小さな谷川の底を写した……」の表現はどのように紙芝居にしようか。 ・なぜ題名が『やまなし』なんだろう。 </div>	<p>◆ 叙述と絵、同じ場面の他のグループの絵と比較しながら、<u>比喩表現の解釈について課題を見付け、何を何に例えているのかを考えることができる。</u> (観察)【思・判・表】 B 絵について叙述とあっているかを考えて、必要があれば話し合って修正している。 C→ 教師が質問をしたり、他のグループと比較させたりすることで、俯瞰する機会を設け一緒に考える。</p>
3 比喩表現について、意見が分かれている部分について話し合う。 (13分)	3-(1) <u>全体の話し合いの内容として、紙芝居の絵の描き方で困っていることを取り上げることで、わからない言葉や比喩表現などについて、児童が自分事として話し合えるようにする(D)。</u> 3-(2) <u>比喩表現で表された物と喩えられた物を意識させ、その2つにある共通点に気付くようにすることで、比喩表現の特徴を感じられるようにする。(A B)</u>
4 話し合いを受け、自分たちが修正したり、次の活動に取り組んだりする。 (15分)	4 次時以降へ学習意欲を継続し没頭して取り組めるように、机間指導をしながら、「言葉の資質・能力」に関する学びと「学び方の資質・能力」に関する学び、それぞれを児童と共に振り返り、価値付けることで、自分の学びを俯瞰できるようにする。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「五月」「十二月」「小さな谷川の底を写した……」の表現をつくってみよう。 ・「天井」を変えなくちゃいけないね。 </div>	